

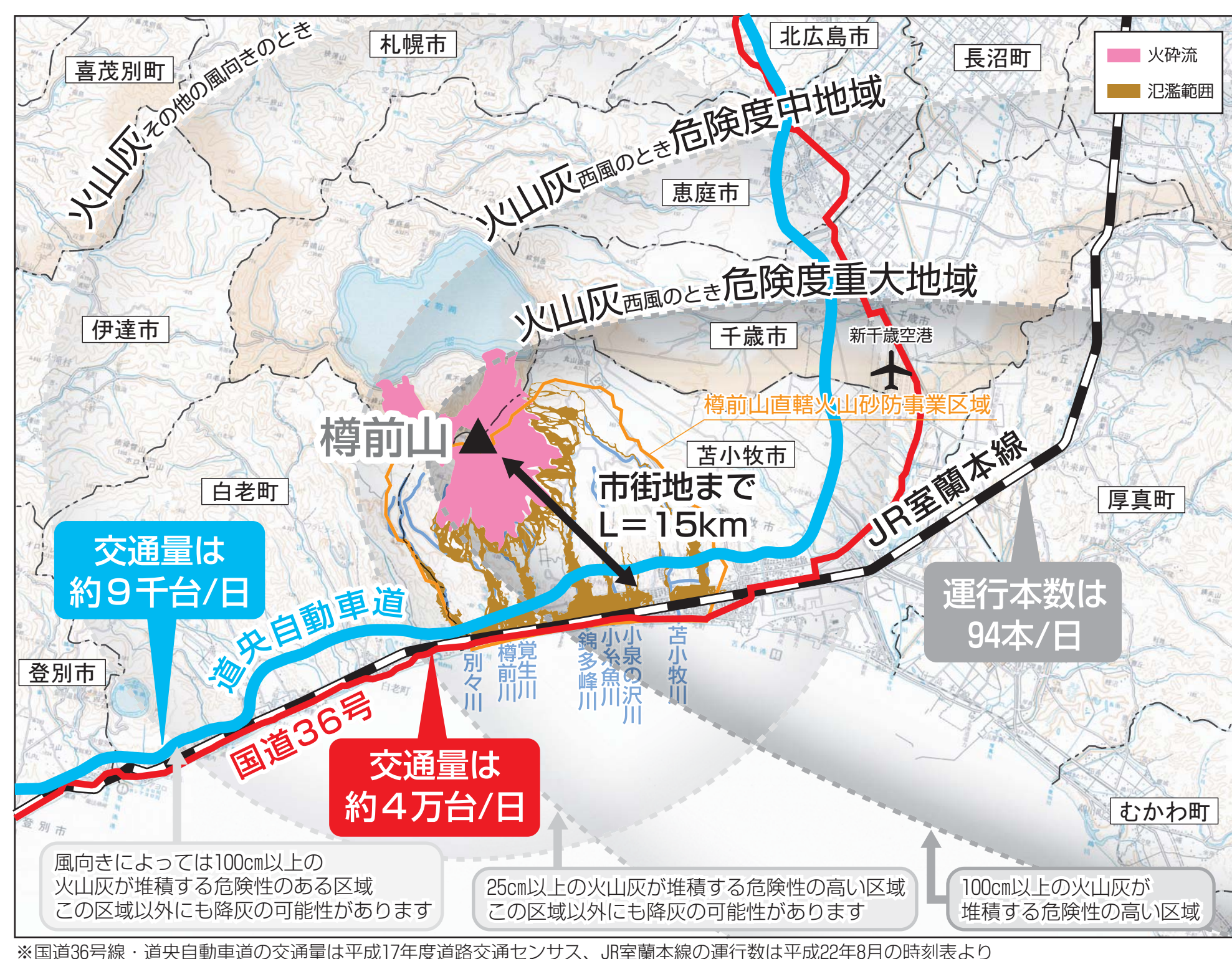
樽前山直轄火山砂防事業

北海道開発局
室蘭開発建設部

樽前山は、火口部で高温状態が続く、活動的な火山の一つです。樽前山が噴火すると、泥流は苫小牧市街地に達し、多大な被害を及ぼすと予想されます。

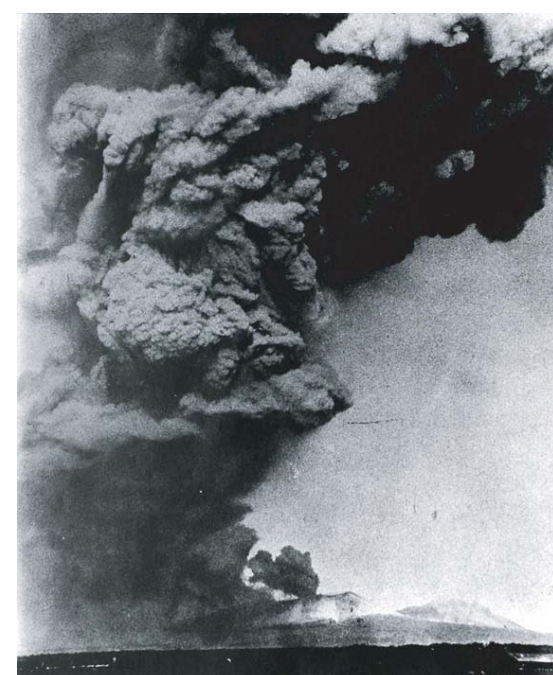
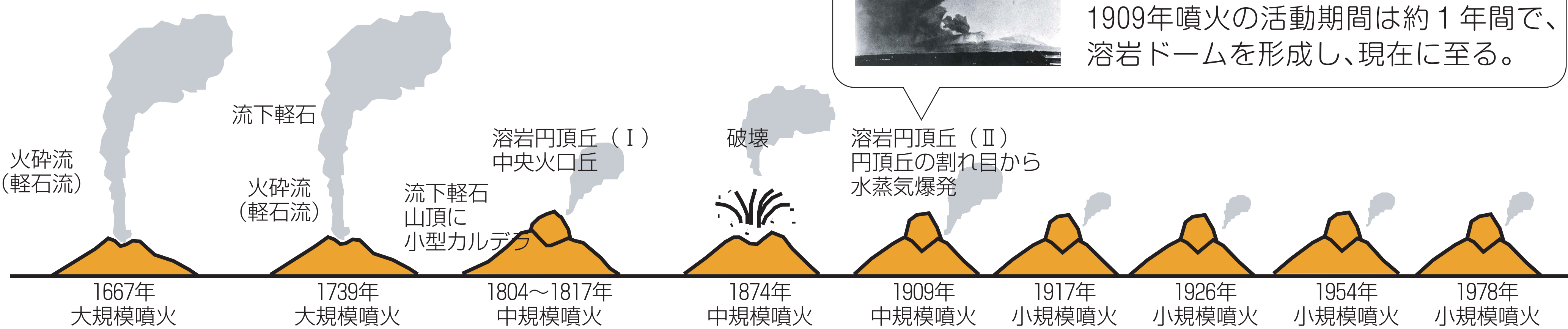
北海道開発局は、平成6年から樽前山直轄火山事業に着手し、火山噴火に伴う泥流の氾濫を抑制するために、遊砂地・砂防堰堤の整備を行い、火山噴火による地域社会への被害・影響を最小限に食い止めます。

大規模な噴火が起こると、周辺地域に甚大な被害を及ぼし、北海道の生活や産業を支える鉄道・高速道路・空港・港湾に被害が及び、社会機能がマヒしてしまうことも考えられます。



これまでの樽前山の噴火状況

樽前山は1667年から1978年迄に大規模～小規模の噴火を繰り返し、1739年の大噴火では、火砕流が山麓まで流下し、降灰は千歳付近で50～100cm積もりました。



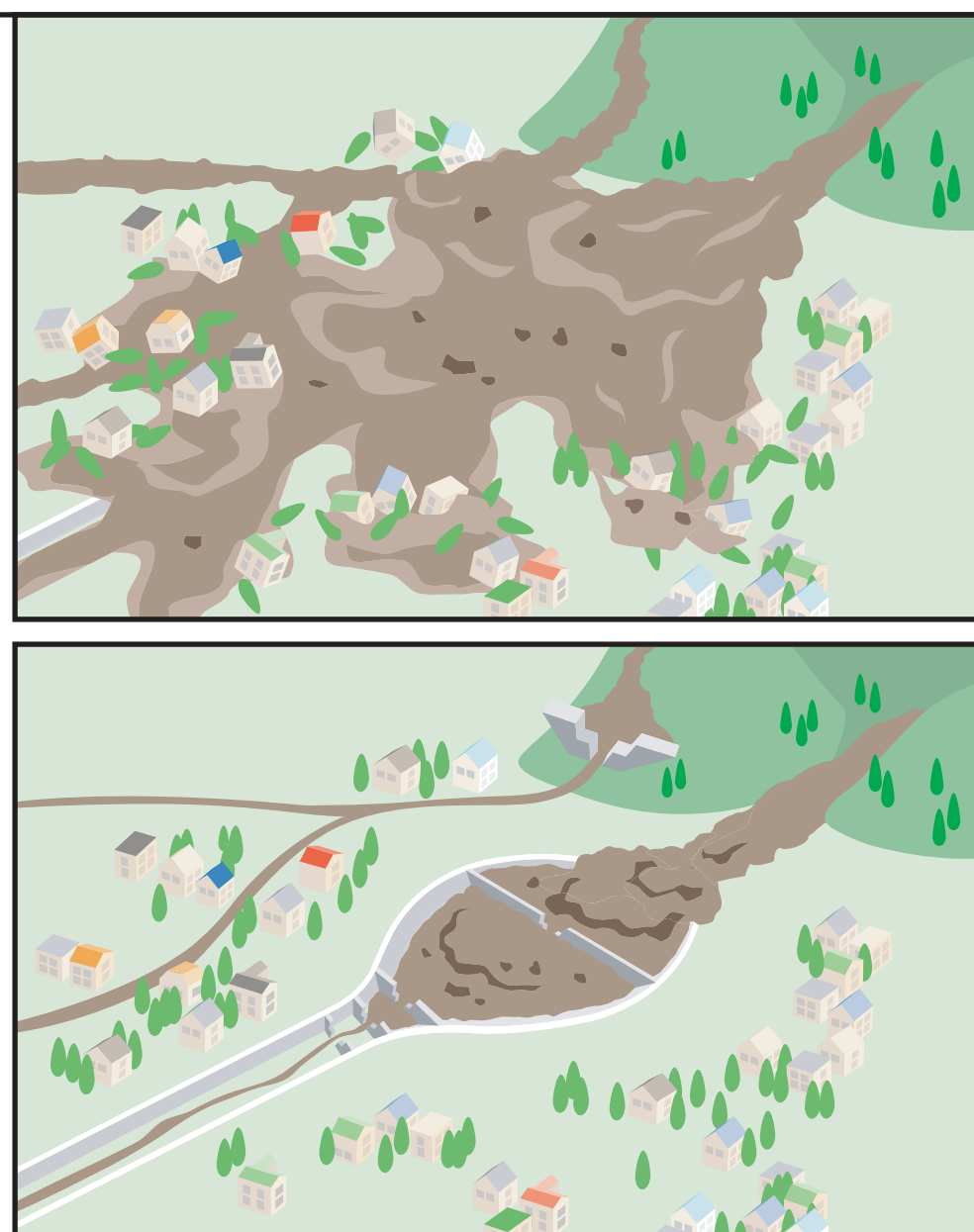
1909年噴火写真

1909年噴火の活動期間は約1年間で、溶岩ドームを形成し、現在に至る。

樽前山から流れ出る7つの溪流に砂防設備の建設を進めています。



砂防設備の効果



砂防設備がない場合

砂防設備がなければ、泥流や土石流などの大量の土砂が一気に市街地へ流れ込み、土砂災害が発生しやすくなります。

砂防設備がある場合

砂防堰堤や遊砂地などの砂防設備を整備することにより、市街地への泥流や土石流などによる土砂災害の被害を軽減します。